

浜松のブラジル人コミュニティの現状

— 一定住外国人としてのブラジル人の意識変化 —

イシカワ エウニセ アケミ
静岡文化芸術大学
2011.01.29

Debate em Português

- ◆ ブラジル人を対象にしたシンポジウム
- ◆ 静岡文化芸術大学で開催
- ◆ すべてポルトガル語で実施
- ◆ 調査結果をブラジル人コミュニティに還元
- ◆ ブラジル人による自由な発言、討論

2008年10月 (ブラジル人参加者、約80名)
2009年6月 (ブラジル人参加者、約100名)
2010年8月 (ブラジル人参加者、約60名)

浜松市におけるブラジル人の生活 (2008年10月)

- ◆ 1ーブラジル人の自己意識・自覚
 - ・日本での短期滞在から長期滞在・永住化
 - ・出稼ぎから移民へ
- ◆ 2ー日本社会への適応
 - ・日本人との交流
 - ・日本語習得の必要性
 - ・日本の法律の知識
 - ・日本社会のルールを尊重する必要

- ◆ 3ー子どもの教育
 - ・学校の選択:日本の学校 X ブラジル人学校
 - ・バイリンガル学校の可能性
 - ・日本の学校での教育、そして一般職や専門職へ
- ◆ 4ー子どものアイデンティティ(若者発言)
 - ・ブラジルの文化・アイデンティティの維持
 - ・親のサポートが必然

問題点:日本における子どもたちの教育は親がブラジルで受けた教育より低いレベル

経済危機下で私たちブラジル人は 日本でいかに生きるか(2009年6月)

- ◆ 経済不況下での生活
在静岡県ブラジル人の状況の特徴(2007年調査)
 - ・家族滞在:2~4人家族(75%)
 - ・日本での永住を目的(2007年13%、2009年24%)
 - ・失業者の著しい増加(雇用保険、生活保護)

ブラジル人の自己意識・自覚(2009年)

- ◆ 再就職の困難さ:日本語能力
- ◆ 日本語習得の問題:誰の責任か
(企業、政府、個人 ex.行政が提供する日本語講座)
*働いているブラジル人のニーズに合っていない(時間帯など)
- ◆ 出稼ぎから「移民」への認識
- ◆ 今後、日本での生活は？

在日ブラジル人の家族と子どもの教育

- ◆ 言語能力: 会話 X 学習言語
- ◆ 両親が不在、昼間は子どもが学校から帰ってきて一人になる
(親が子どもに学校に関するアドバイスができない)
- ◆ 理想: 日本の教育を受け、一般職に就くこと
(工場以外)
- ◆ 失業中の親が子どもの教育にどうすればよいのか(失業と不就学)

子どものアイデンティティのケア

- ◆ 日本でブラジル人として生活すること
- ◆ 子どもへのブラジルの紹介
(悪い部分だけを強調する傾向がある)

在日ブラジル人家族の状態と心の健康 (2010年8月)

- ◆ 自殺の危険あり
(2009年調査: 来日後自殺を考えたことがある、8.6%)
- ◆ ブラジル人コミュニティ内で鬱の増加
- ◆ 家族関係の問題、ストレス、DV、孤立(社会的)、不眠症、失業、借金
- ◆ 自殺は日本の文化の一部。日本にいるブラジル人は日本で自殺のことを考えるようになる

今後日本での生活について

- ◆ 在日ブラジル人の高齢化問題
- ◆ 第二世代の今後の日本社会への適応

静岡文化芸術大学として 何ができるのか

- ◆ 在学しているブラジル人学生をロールモデルとして紹介し、ブラジル人の子どもたちにモチベーションを強化
- ◆ 日本語教員養成課程で、外国人の子どもの指導者を育成する